

令和4年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業

実施報告書

現地集合型研修



主催：一般財団法人 自治体国際化協会
実施受託：特定非営利活動法人 多文化共生マネージャー全国協議会

1. 目 的

地域国際化協会における広域連携は、基本的に各ブロック内を想定しており、東日本大震災のような大規模広域災害の発生により、ひとつのブロック内で複数個所が同時に被災した場合、他のブロックからの応援が円滑に進むようブロックを超えた応援想定と顔の見える関係づくりを進める。

2. 業務内容

全国の地域国際化協会職員を対象とした広域での災害時外国人支援に関する研修の実施に係る以下の業務

- (1) 日程・会場決定
- (2) 研修企画・事前打ち合わせ
- (3) 会場手配
- (4) 申込依頼・参加者とりまとめ、参加者名簿の作成
- (5) 研修・訓練の資料準備
- (6) 研修・訓練の物品等準備
- (7) 会場設営
- (8) 研修・訓練の実施
- (9) 報告書作成

3. 実施日時・会場

日時：令和4年10月13日（木）13時半～16時半

会場：東京体育館 第一会議室（東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目17-1）

4. 対象・定員

地域国際化協会職員・60名程度

5. 研修テーマ

大規模災害における外国人支援のための広域連携を考える

6. 実施内容・スケジュール

挨拶 （一財）自治体国際化協会 理事 鳥田 浩平

解説 災害時広域連携に関する協定および災害時外国人住民支援活動助成金について
（一財）自治体国際化協会 多文化共生部多文化共生課 主査 松本 慎之介

講義 災害時の外国人支援における地域国際化協会に期待される役割

講師 （特活）多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事 田村 太郎

グループディスカッション 災害時広域連携の充実に向けて

進行 （特活）多文化共生マネージャー全国協議会 代表理事 土井 佳彦

《プログラム》

時 間	内 容
13:00～13:30	受付
13:30～13:40	開会 主催者挨拶、趣旨説明等
13:40～14:00	【解説】 災害時広域連携に関する協定および災害時外国人住民支援活動助成金について
14:00～14:50	【講義】 災害時の外国人支援における地域国際化協会に期待される役割
14:50～15:00	休憩
15:00～16:30	【グループディスカッション】 災害時広域連携の充実に向けて ・グループ内自己紹介（5分） ・所属ブロックの協定内容等の確認（20分） ・協定内容の過不足等について意見交換（20分） ・グループ発表（15分） ・全体での意見交換・質疑応答・講師コメント等（30分）
16:30	閉会

7. 実施結果

東日本大震災レベルの大規模災害を想定した、地域ブロックを超えての広域連携を考える研修は今回が初開催であった。日頃、各ブロック内での連携について協議・訓練がなされているが、本研修では、ブロックを超えて連携する際には、ブロックごとの支援スキームや連絡方法、情報共有のためのデータの様式等の異なりが障壁になってしまうこと、また相互の支援スキームに対する不理解から実際の支援活動がスムーズにいかなくなってしまうことを解消するきっかけとして行った。

実際、グループディスカッションの中で、そうしたブロックまたは所属団体ごとの違いを知ることができ、それによる連携上の課題を整理し、共通のフォーマットをつくっていく等、改善の必要性についての意見が多く寄せられた。また、長引くコロナ禍で地域を超えて関係者が一堂に会する対面研修が行えていなかったことから、顔を合わせて意見交換をし、ネットワークを構築していくことの重要性も指摘され、非常に有意義な機会となった。

8. 参加団体一覧

都道府県名	団体名	参加者数
北海道	(公財) 北海道国際交流・協力総合センター	1名
山形県	(公財) 山形県国際交流協会	1名
新潟県	(公財) 新潟県国際交流協会	1名
茨城県	(公財) 茨城県国際交流協会	1名
埼玉県	(公財) 埼玉県国際交流協会	1名
	(公社) さいたま観光国際協会	1名
千葉県	(公財) ちば国際コンベンションビューロー	1名
東京都	(一財) 東京都つながり創生財団	2名
神奈川県	(公財) 横浜市国際交流協会	1名
	(公財) 川崎市国際交流協会	1名
愛知県	(公財) 愛知県国際交流協会	1名
滋賀県	(公財) 滋賀県国際協会	1名
大阪府	(公財) 大阪府国際交流財団	1名
兵庫県	(公財) 兵庫県国際交流協会	1名
	(公財) 神戸国際コミュニティセンター	1名
和歌山県	(公財) 和歌山県国際交流協会	1名
愛媛県	(公財) 愛媛県国際交流協会	1名
広島県	(公財) 広島平和文化センター	1名
大分県	(公財) 大分県芸術文化スポーツ振興財団	1名
合計	19団体	20名



9. 参加者の声

- 他団体の方と顔の見える関係を築くことができ良かった。また、情報の共有ができ今後の業務の参考になった。
- 忙しい毎日の中で一番後回しになりがちな防災への取組ですが、このような機会があると、よし、明日からまた一から考え直した、取り掛からないと、と思わせていただけます。ありがとうございました。
- これまで、自分の中では漠然としていた広域連携について、具体的なイメージを描くことができました。特に、これまでのスキームを常に見直し、その時々にあったやりかたに改善していく大切さを知ることができ、大変為になりました。
- 顔の見える関係づくりとして、対面で実施できたことがよかったです。
- 講義はもちろんのこと、グループディスカッション後の全体共有・質疑応答においてもみなさんのお話を伺う中でこれから何を準備していけばよいのか参考になりました。
- 関東ブロックの参加がやはり多かった。まだまだ他のブロックから移動してのリアルの研修は難しいのか。目に見える参加研修（現地研修）の方が、個人的には嬉しいです。情報の共有、顔が見える関係を作るきっかけになったと思う。
- 全国の国際交流協会の職員と顔を合わせることができいい機会でした。参加させて頂き、ありがとうございました。近隣府県以外の方と情報交換できる機会は少ないので、貴重な時間となりました。
- 対面開催による繋がりを深める良さもあったし、昨今の状況に鑑みた手引きの改正を検討されていると知れたのがよかった。職種を超えた意見交換ができて大変有意義であった。
- 実際に会って話せる研修を実施していただきありがとうございました。グループディスカッションの際、あらかじめ共有できる情報（個人的にはグループメイトの経験値や各ブロックの協働状況など）の提供があると時間が節約でき、話にまわせたのではないかと思います。また、ファシリテーターがいた方が、話をもっと深くなったと思います。
- 顔の見える関係作りという点では一歩進んだように思いますが、実務経験のある方やコーディネーター研修受講者がもう少しいらっしゃれば、より深い内容に掘り下げられたのかな、と思いました。

10. 記録写真

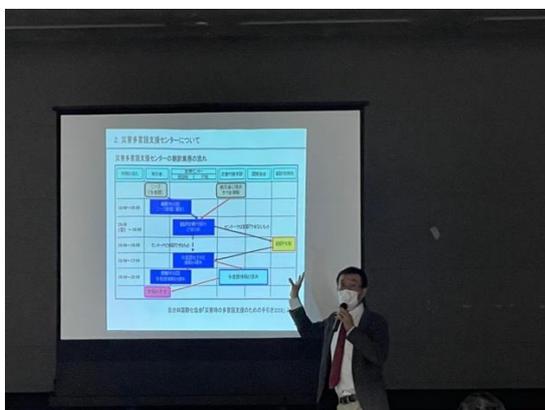
<開会挨拶>



<解説：松本氏>



<講義：田村>



<進行：土井>



<グループディスカッション>



<質疑応答>



以上